

北陸建工 特集

施工事例紹介

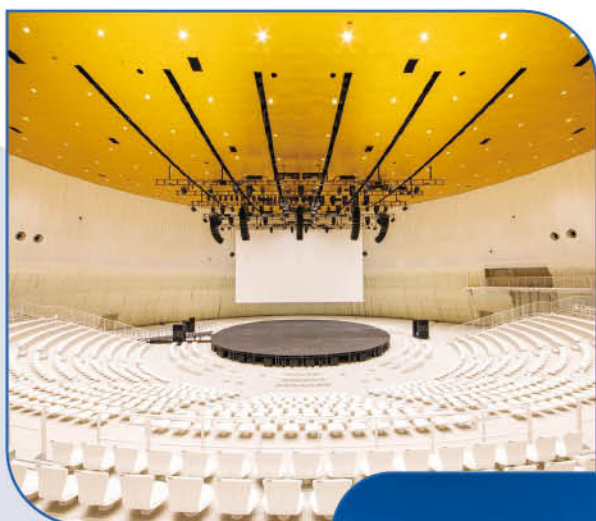
大阪・関西万博 EXPOホール “シャインハット”

大阪・関西万博のメイン会場として建設された「EXPOホール」(愛称: シャインハット)。開閉会式をはじめ、音楽・演劇・芸能など、さまざまなイベントが会期を通して開催されました。

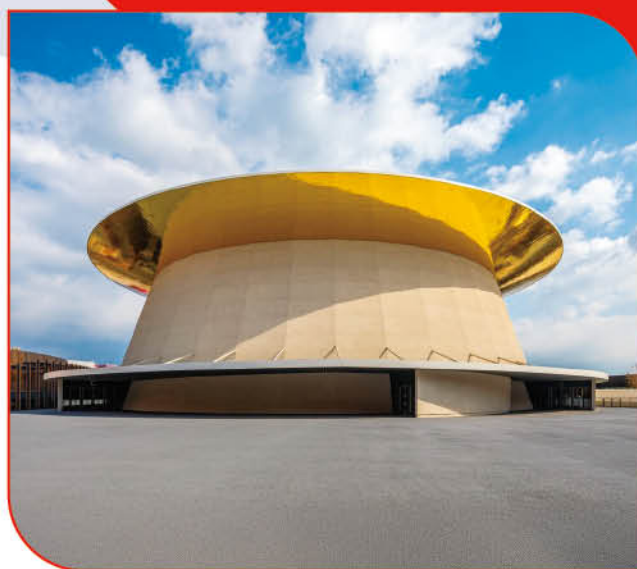
このホールは約1,900席を有し、360度映像投影が可能な円形ステージが特徴です。来場者に新しい視覚体験を提供し、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を体現しています。

構造形式は鉄骨造で、鉄骨工事を北陸建工株式会社が担当しました。

座席数	約1,900席(車いす席含む)	階数	2階建
構造	鉄骨造(一部鉄筋コンクリート造)	床面積	8,203.91㎡



EXPO 2025



「いのち輝く未来」を象徴する祝祭空間

ホールは客席と舞台が一体となったワンスロープの円形劇場です。壁面は厚手の布をくねらせた白いカーテンで覆われ、金色の天井と白い床が外側の屋根と一体感を生み出しています。全周にわたりプロジェクションマッピングが展開できる構造となっています。

設計を手がけた伊東豊雄氏は、「未来的な建築は曲線的で複雑なフォルムになりがちだが、原初的な建築こそが説得力を持つ」との考えからこのプランを提案しました。

実際の空間では、その“原初的な建築”を活かしつつ、内外ともにシンプルなキャンバスとして活用されています。

EXPO HALL “Shining Hat” PROJECTION MAPPING

EXPOホール「シャインハット」では、万博会期中の毎夜、壁面をスクリーンに「プロジェクションマッピング」を開催しました。

招待作品2点に加え、世界中のクリエイターから「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに募集した作品を月替わりで上映しました。

PLANNING

プロジェクト計画部

計画段階では、弦材長さ・取合い角度・継手位置が左右非対称かつ同形状ではなかったため、部材の拾い出しやモデルチェックに苦労しました。また、円形構造物の方向について、東西南北以外での管理要領や矢視が図面によって異なることがあり、対応処理に時間がかかったことも印象に残っています。段取りから現場での建方工事まで携わり、特殊物件の一連の流れを経験できたのは大変良い経験でした。

仕上がりでは目に見えない壁下地やホール天井部分が非常に美しく納まり、鉄骨精度の高さと工場の技術力を改めて実感しました。実際に元請け担当者からも何度もお褒めの言葉をいただきました。今後も、より一層現場と工場の橋渡しができるよう取り組んでいきたいと思ひます。

Shining Hat PROJECT

DESIGN

プロジェクト設計部

円形の屋根トラスのメインフレームはH形鋼を使用しており、トラスの上弦面は水勾配を考慮した円錐形、下弦面は球面の仕上がりとなるように鉄骨が配置されていました。そのため、鉄骨の各接点に向かうH形鋼はすべて角度が異なる状態でした。製作の合理性を考慮した鉄骨納まりを検討する際には苦労しましたが、とてもやりがいを感じました。

今回の大催事場の構造図は、鉄骨納まりの詳細（詳細）の記載がほとんどなかったため、設計協力として各鉄骨接点の納まりを提案しました。その際、特に指摘もなく設計事務所から了承をもらったことは、とても満足感がありました。さまざまな要因により図面工程の遅れも発生しましたが、皆さま個々人のご協力とご尽力をいただいたこと、また、工場での製作技術と管理、現場での建方技術と管理があったからこそ、最終的にお客様に満足していただけたと思ひます。携わった皆さまに改めて感謝申し上げます。

QUALITY

品質管理本部

この大催事場から、ロクジットを使用しての本格的な検査が始まりました。ロクジット講習を行いながら社内検査を進め、最初は「部品がついていない！」などのトラブルもありました。また、短納期の物件であるにもかかわらず図面変更が多々あったり、特殊鉄骨にあまり携わったことのない鍛冶工による製作があったりと、工程がうまく進まないこともありました。その中でも品質管理としては、柱やトラス上下弦材など複雑な形状の精度管理に特に苦労しました。1つ1つの精度が建物全体の完成度や安全性に直結するため、常に緊張感を持ちながら検査に臨みました。限られた工程の中での検査は大変でしたが、生産本部やプロジェクト本部の皆さまと連携しながら細部まで検査を徹底し、最後までやりきることができました。この経験を通じて品質管理の重要性を改めて実感するとともに、大きなプロジェクトの一部を支える責任感を強く感じました。今後もより高い意識で仕事に取り組んでいきます。

PRODUCTION

生産本部

今回のプロジェクトでは、さまざまな苦労や学びがありました。冬の厳しい寒さの中での作業は身体的にも負担が大きく、ケガキロボも冷えすぎてうまく動作せず、ケガキミスが多発するなど思わぬトラブルも発生しました。また、取り付く部材が多く、図面も情報量が多いため、理解するのにかなりの時間を要し、日々図面と格闘する場面も多々ありました。加えて、同じ部品が数多く取り付く部材では根気のいる作業が続きました。製品が長く、クレーン作業に苦労したり、初めて扱う回転機では取り外しや段取りに時間を要したりと、さまざまな困難がありました。こうした困難を一つひとつ乗り越えながら、仲間と知恵を出し合い、無事に形にできたことは大きな達成感につながりました。この経験を次へ活かし、より良いものづくりへとつなげていきたいと思ひます。

5DAYS インターンシップ

製造やものづくりに興味を持ち、将来その分野に携わりたいと考えている理系学生に対し、専門的なプログラムを通じて「製造業の成り立ち」や「ものづくりの面白さ」を体験してもらうことを目的としています。

昨年に引き続き、当グループがネーミングライツを得ている「北陸建工グループアスリートフィールド」に、観戦用ベンチを寄贈する形式で実施しました。

今年で3年目の取り組みとなり、これまでに計8台のベンチを納品しています。

参加学生 4名（富山県立大学、金沢工業大学、富山高等専門学校 機械科の学生）

内 容 3台の観戦ベンチを製作し、アスリートフィールドに寄贈

寄 贈 式 10月1日に実施



2年前、インターンシップに学生として参加していた2人が、今年は講師としてベンチ製作に貢献。採用と育成の循環ができてきています！

5日間のプログラムを通して、予算工程・設計・製作・検査など、ものづくりに関わる一連の業務を学びました。

高校生3DAYS インターンシップ

インターンシップを通じた地域貢献活動

北陸建工グループのインターンシップは、単なる職業体験ではありません。私たちが日々取り組む「鉄のものづくり」を通して、社会に貢献する喜びや、働くことのやりがいを実感してもらうことを大切にしています。その想いから、本プログラムを構築しました。今回は、北陸建工グループアスリートフィールドに寄贈するロッカーベンチの製作に挑戦しました。このプロジェクトは、施設運営者から寄せられた「老朽化したベンチの安全性に関する懸念」をきっかけにスタート。破損が進み使用に支障が出ていた既存ベンチを、より安全で耐久性の高い鉄骨構造のベンチへと作り替えることを目的としました。



社員が全力で

バックアップしました！



ベンチ寄贈

インターンシップには、日頃から当施設を利用する富山工業高校サッカー一部の生徒が参加。「自分たちの使う場所に貢献できた」と喜んでくれました。講師を務めたのは、同じ富山工業高校出身の当社若手社員。地元で学び、入社し、後輩を育てるという「採用と育成の循環」が生まれました。

富山第一高校文化祭 出展

富山第一高等学校から「企業の特徴を活かした文化祭出展」の依頼を受け、北陸建工グループとして初めて参加しました。



『鉄スクラップ(端材)を活用したクラフトアクセサリー作り』ワークショップを開催！



北陸建工グループと富山県が連携し、高岡市のアクセサリーショップ「プランタン」さんにもご協力いただきました。当日は常に満員となり、計106名の高校生が参加。鉄という素材の意外な魅力に触れながら、オリジナルアクセサリー作りを楽しんでいただきました。



2025.9.27^{sat}

安全宣言日

2025年9月27日を「北陸建工グループ安全宣言日」と定め、全社で安全祈願を行うとともに、終日「安全」について考え、無事故・無災害を誓いました。
各社で実施した取り組み内容をご紹介します。
今回学んだことを日々の業務に活かし、一人ひとりが安全意識を高めながら、「安全第一」の職場づくりを進めていきましょう。ご安全に！

各社にて
安全祈願を
行いました！

安全祈願



北陸建工

- リスクアセスメントトレーニング
- ヒヤリハットKYT
- AED訓練
- 避難訓練

安全宣言



リスクアセスメントトレーニング



ヒヤリハットKYT



AED訓練



避難訓練



KYT



北陸熔断

- KYT
- 安全講習
- AED講習

安全講習



AED講習



北陸鋼産

- 藤田顧問講習
- 各所清掃
- DVD視聴

藤田顧問講習



各所清掃



DVD視聴



新設のお知らせ

KENKOラウンジ

社員の皆さんが気軽に集い、コミュニケーションを深められる場として、新たに「KENKOラウンジ」を開設しました。グループ各社・各部署を越えた交流を促し、リラックスした雰囲気の中で情報共有やアイデア創出ができる空間です。休憩や打ち合わせなど、さまざまなシーンでご利用ください。

KENKOラウンジの新設は、「働く環境の充実」と「社内コミュニケーションの活性化」を目的としています。業務の合間に一息つける「憩いの場」としてだけでなく、社員同士が自然に会話を交わし、新たな発想や連携が生まれる場となることを目指しています。
また、来客時の応接スペースとしても活用できるよう配慮しており、より開かれた社内空間づくりを進めていきます。今後も、快適で風通しのよい職場環境づくりに取り組んでまいります。



Follow me!